

第29号 すいかずら

General Incorporated Association
Shrine and Temple
Architectural Decoration
Heritage Skill Association

令和2年3月発行

編集：(一社)社寺建造物美術保存技術協会
発行人：アトキンソン デービッド マーク

〒108-0014 東京都港区芝4-4-5-3F

(株)小西美術工芸社内(事務局)

Tel: 03-5765-1481 Fax: 03-3455-9250

<http://shabikyo.com/>

澤野道玄理事 旭日単光章を受章

令和元年5月21日、内閣府より春の叙勲が発令され、当協会の澤野道玄理事(株さわの道玄)が旭日単光章を受賞されました。

去る9月14日には(株さわの道玄)と社寺建造物美術保存技術協会との共催でホテルグランヴィア京都に於いて祝賀会が盛大に催され、当日は、当協会荒木理事・片山理事より花束が贈呈、アトキンソン代表理事より祝辞が述べられました。

文化財修理を牽引する技術者の御一人として活躍され、後継者育成にも力を注いでこられた澤野理事の長年のご功績が、このような形で認められましたことに心よりお祝いを申し上げます。



旭日単光章とは

旭日章は明治8年に日本の最初の勲章として制定。自治体の公職者、公共団体の長などで各分野での顕著な功績のあった者に授与される。

(四頁に続く)

入札条件に関する要望書提出

今年度、社寺建造物美術保存技術協会では(公財)全国国宝重要文化財所有者連盟に對し、当協会会員、または同等の技術・実績を有する当協会準会員に原則として資格を限定することを入札条件に含めていただく旨要望書を提出いたしました。

予てより当協会では、文化財修理の健全な発展と責任ある施工を業界一丸となって進めていくため、体制強化に努めており、平成29年には皆様のご理解のもと、正会員が雇用する技術者を当協会の準会員として登録し、施工を行っていくことを義務付けました。

専門性の高い技術と実績を日々追求していくことが、貴重な文化財を適切に後世に残していくことへと繋がります。当協会が踏み出した意義の深い一歩となりました。

● 令和1年度 年間事業報告 ●

平成31年/令和1年	活動（●は国庫補助事業）	場 所
4月26日	第1回 理事会 / 金具部会	京都 元山王小学校内 ふれあいサロン
5月11日	通常総会	京都 元山王小学校内 ふれあいサロン
5月25日	臨時理事会	京都 元山王小学校内 社美協事務所
6月4日	第2回 研修委員会	東京 TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
6月15日	臨時理事会	京都 元山王小学校内 社美協事務所
6月19日	京都府文化財所有者等連絡協議会 総会	京都 百万遍知恩寺 衆会堂
6月20日	伝統建築工匠保存会 総会	東京 国立科学博物館日本館講堂
8月5日～6日	●新規採用者のための文化財修理研修会	東京 第三協栄ビル 会議室 (一社) 日本建築学会 会議室
7月	第2回 理事会	通信理事会
7月25日	文化財修理技術保存連盟（文技連） 総会	京都 パレスサイドホテル
8月26日～29日	●固有技術向上研修会【彩色部門 第Ⅰ期】	京都 車折神社境内 芸能神社本殿 元山王小学校内 社美協事務所
9月2日～6日	●固有技術向上研修会【漆部門 第Ⅰ期】	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
9月17日～21日	●固有技術向上研修会【漆部門 第Ⅱ期】	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
10月7日～11日	●固有技術向上研修会【単色塗部門 第Ⅰ期】	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
10月18日	第3回 理事会	京都 元山王小学校内 社美協事務所
10月28日～11月1日	●固有技術向上研修会【単色塗部門 第Ⅱ期】	京都 車折神社境内 芸能神社本殿
10月28日～11月1日	●固有技術向上研修会【金具部門 ①金具補修】	東京 (株)小西美術工藝社 東京工房
11月9日～10日	文化庁選定保存技術公開事業 日本の技体験フェア2019展示・体験 全国文化財保存技術連合会 令和元年度総会	沖縄 沖縄県立武道館
11月22日	●固有技術向上研修会【金具部門 ②鋳造】	大阪 (株)大谷相模鋳造所
令和2年		
1月17日	第4回 理事会	京都 元山王小学校内 社美協事務所
2月13日～14日	●中・上級技術者研修	埼玉 歓喜院聖天堂
3月2日～6日	●固有技術向上研修会【彩色部門 第Ⅱ期】	京都 (有)川面美術研究所
3月19日（予定）	臨時理事会	京都 (株)小西美術工藝社 京都支社

※他団体の実施する会議などへの参加は、主要なもののみ掲載



代表になり早くも2年が経ちました。4月から二期目を務めることとなりましたので、先代会長の荒木さんの方針を基礎に、進めさせていただきます。

昨年度、社美協準会員の中から、16年以上の実務経験と、確かな技術・実績を有する職人を上級技能者として認定をしました。準会員とは、正会員に登録されている文化財修理事業者と雇用関係にある職人を指し、これは平成29年に設定されました。

現在協会では、16年以内の職人の認定制度と研修制度の整備を進めているところです。初級と中級の認定に向けて、まずは初級カリキュラムを社美協五部門（漆、彩色、剥落止、単色塗、金具）毎に定め、令和3年度から導入することを目指しています。続いて、準上級技能者のカリキュラムを定めたところで、一通り完成されることとなります。認定をした上で、新たな準会員には毎年研修を受講いただき、安定化を図っていきます。

この制度には二つの目的があります。社美協の事業者が修理工事を担当する場合、確かな技術を持つ職人（準会員）が施工にあたることで、文化財所有者、文化庁、設計管理など、各方面の関係者が安心して、発注することができる体制を確立したいというのがその一つです。

もう一つは、制度の国家資格化です。私は10年前にこの業界に携わった時から、人間の髪の毛を切る仕事などに国家資格がある一方で、国宝・重要文化財などに従事する職人に国家資格がないことに驚きました。歴史のページを担う、日本の文化財を守るという大事な仕事であるからこそ、国の法律に基づいた資格へと整えていくことが必要不可欠だと感じています。

とはいえ、国家資格は天から降ってくるものではなく、協会として、枠組みを定め、安定的な運営と、制度の正当性を証明しなくてはならず、今はその整備段階です。

社美協は、令和2年度から、21社体制を目指します。文化財修理を手掛ける事業者全社に入会いただき、皆で職人の技術向上、技術継承に努めるために、意見を出し合い、研修を重ねて、業界の健全たる発展と、文化財の正しい修理を推進する組織の実行を進めてまいります。当協会へのご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

代表理事 アトキンソン デービッド マーク

令和2年度社寺建造物装飾技術者事業計画（国庫補助事業）

① 伝承者の養成

1. 新規採用者のための文化財修理研修会 ＜対象：新入社員～就業3年目程度＞

新規採用者等に対し、文化財修理現場に於ける技術者としての知識を習得する基礎研修を行う。

2. 中・上級技術者研修会 ＜対象：実務経験10年以上の技術者＞

文化財建造物装飾分野の研鑽を深め、後継者へ知識・経験を継承していくことを目的とし、最新の文化財行政動向の理解、また実際の施工現場を題材とした課題や取り組みの共有、改善策の検討を行う。

② 技術の錬・磨技

3. 固有技術向上研修会 ＜対象：実務経験10年以下の技術者＞

「漆」「彩色」「単色塗」「金具」「剥落止」各専門分野の技術研修会の実施

◇彩色・単色塗・金具部会：平成30年度からの継続研修 車折神社 芸能神社本殿現場研修

③ 関連技術

4. 建造物装飾修理用資材研修会 ＜対象：概ね実務経験10年以上の技術者＞

建造物装飾に関連する技術や材料の理解を深めることを目的とする。見学や講義、実践などで知識を習得することにより、実務での効果的な使用へと活かす。

④ 刊記録作成

○ホームページによる活動報告

○報告書と会報「すいかずら」による研修事業の成果報告（年1～2回発行）

澤野道玄理事の旭日単光章の受章に際し、京都府教育庁指導部文化財保護課 鶴岡様に寄せていただいた祝辞と、澤野理事の当協会へのメッセージを掲載いたします。令和元年度を以て澤野理事は当協会を退任されます。

協会発足から25年に亘り協会の発展と後継者育成に尽力くださいましたことに、深く御礼申し上げます。

澤野道玄さんの叙勲を祝して

京都府教育庁指導部文化財保護課 建造物担当課長 鶴岡典慶

令和元年春の叙勲において、一般社団法人社寺建造物美術保存技術協会理事の澤野道玄さんが、文化財保護への多大な御功勞により旭日単光章を受章されました。このたびの榮譽に対し、心よりお祝い申し上げます。

澤野道玄さんは、昭和46年に文化財の修復に携わられて以降、約48年の長きにわたり文化財の保存修理に従事してこられました。中でも桂離宮における木部保存処置や建造物堂内彩色の剥落止めでは様々な先端技術も取り入れ、劣化が著しく危機的な状況にあった文化財に対し、多彩な技術を駆使して献身的に保存修理にご尽力されました。

また、平成17年4月から「社寺建造物美術協議会」（現技術協会の旧称）の会長に就任され、平成19年の国の選定保存技術「建造物装飾」団体認定に多大な貢献をされるなど、平成23年3月までの5年間、団体として文化財保存技術の向上や技能者育成等にも力を注がれました。

澤野道玄さんの仕事に対する姿勢では、私もこれまでに多くの保存修理で一緒にしましたが、澤野さんは豊富な知識と経験で培われた技術のすばらしさはもちろん、何とんでもその温厚篤実なお人柄が印象的で、困難な仕事であっても「まあ、何とかありますよ。」と、いつも穏やかにそして前向きに取り組んでいただきました。このような実績が、多くの方々から信頼と人望が寄せられる由縁であろうと思います。

昨年夏頃、澤野道玄さんから、「そろそろ会社も後進に譲り、仕事の一線から退いてゆっくりしようと考えている。」とお伺いしていましたが、秋に文化財の各種選定保存技術保持団体等の集まりである文化財修理技術保存連盟（文技連）会長に御就任されたとの報を聞き、ご本人の意は半ば叶えられなかったかもしれないが、引き続き文化財の保存に取り組んでいただけることになり、嬉しく思っております。

最後に、改めてこれまでの御功績に敬意を表しますとともに、今後も文化財保存技術の向上と発展に対し一層のご活躍をご期待申し上げます。

社美協と共に

株式会社さわの道玄 相談役 澤野道玄

私が社美協に入会して早や25年の歳月が過ぎました。私の人生は社美協と共にあったと申し上げても過言ではありません。この度社美協退任にあたり一言ご挨拶させていただきます。

発足当時は同業者の親睦団体でありましたが、選定保存団体として認定を受ける頃より社美協が変化を始めたのです。

会則の改定によって入会条件を緩和し、新たな条件のもと会員数は倍増されました。研修会を機軸とした運営、技能認定制度や準会員制度の導入、そして社美協の法人化など矢継ぎ早に改革が進んでまいりましたのは周知の通りです。これらは社美協の公益的な使命に応えるための骨格作りに過ぎませんでした。ようやく選定保存団体としての活動の準備が整い、船出の 때가 やってまいりました。

さあ、これから社美協はどのような針路をとり、航行して行くのでしょうか、とても私には見届けることはできませんが、ただ次代を担う会員の皆様方の協力によって、さらに発展した社美協の姿が目に見えようと思います。それは、社美協の目的でもある「業界の健全なる発展」と「責任ある施工」を達成した姿なのであります。では、「業界の健全なる発展」とはいかなるものでしょう。これは会員各事業所の経営の安定を意味します。しかし会員20社が競合する現状では、安定を求めることは簡単な問題ではありません。技能者の正社員化がさらに促進され競合が続くならば、経営は苦しくなり、活路として会員相互間での事業集約化が、近い将来進んで行くことになるでしょう。次に「責任ある施工」はどうでしょう。準会員による施工体制によって施工責任を明確にし、同時に修理技能者の意識改革を計り、社会的地位も確立するという目的があるのです。日本の文化、日本の文化財を支える、強い意志と、卓越した技能を有した準会員を育成する責任を、社美協は今後益々問われることになるでしょう。末筆になりましたが、今日までのご支援とご交宜に対して厚く感謝申し上げます、さらなる発展を心より祈ります。

社寺建造物美術保存技術協会 新体制

今後の協会活動の効率化を図り、令和2年度から運営体制を刷新いたします。

新体制 概要

1) 常務理事の設置

代表理事の体制を担える社美協正会員、有限会社 川面美術研究所、株式会社 小西美術工藝社、株式会社 さわの道玄3社を常務理事として設定する。任期：2年間

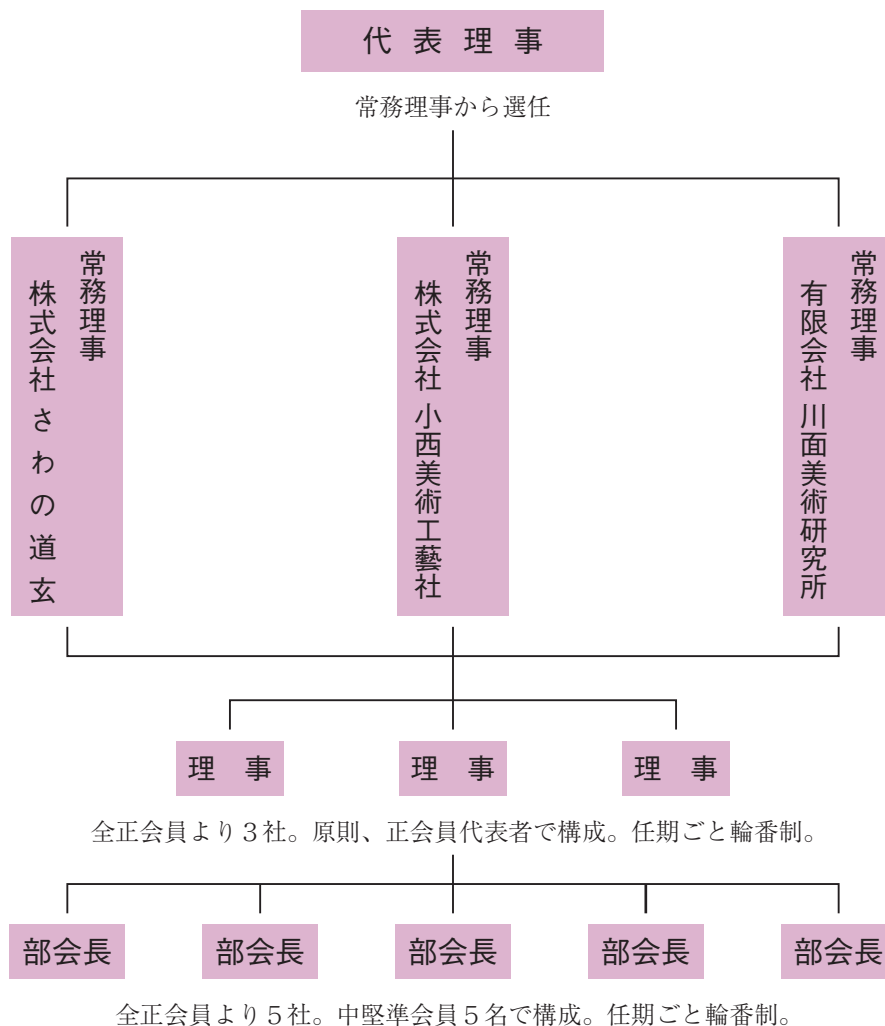
2) 理事の設置

1) で設置した3社の他に、常務理事と共に協会活動を検討し、運営していく3社の理事（各社代表者）を構える。常務理事以外の全正会員事業所が輪番制で担当する。任期：2年間

3) 部会長の設置

社美協5部門を担当する部会長を設置。前述の2) 理事とは別に、部門ごとの担当を担う各会員事業所の中堅準会員で構成し、研修事業の企画や運営を担う。理事同様輪番制とする。任期：2年間

新体制図



「新規採用者のための文化財修理研修会」

期 間：令和1年8月5日～8月6日
 講 師：賀古唯義（（公財）文化財建造物保存技術協会）、伊達 章（（財）中小建設業特別教育協会）
 場 所：第三協栄ビル302号室、建築会館308会議室（いずれも東京都港区）
 研 修 生：21名



文化財修理に従事する技術者として心得ておくべき基礎知識を学ぶ本研修。初日は『重文 八千代座の実例―保存と活用の両立』と題し、（公財）文化財建造物保存技術協会 賀古唯義氏を講師に迎え、明治時代の芝居小屋建築「八千代座」（熊本県）を題材に、文化財修理の計画・調査から施工、竣工後の活用方法まで、一連の進捗を講義いただきました。多くの関係者や地元の方々の並々ならぬ思いと努力を受けて工事が成り立っていることを知り、研修生にとっては、技術者に課せられた責任と役割について考えるきっかけとなったようです。

二日目は『雇い入れ時の安全衛生教育』として、労働災害を起さず心身共に健康で安全に業務にあたるための知識や法令を学習しました。

「中・上級技術者研修会」

期 間：令和2年 2月13日～2月14日
 講 師：馬場良治（選定保存技術「建造物彩色」保持者）、内海勝博（（公財）文化財建造物保存技術協会）、横田敏行（㈱小西美術工芸社）
 場 所：歓喜院聖天堂（埼玉県熊谷市）
 研 修 生：（一社）社寺建造物美術保存技術協会 10年以上の実務経験者 10名、（公財）日光社寺文化財保存会 2名



「剥落止め」の研修会を行いました。講師に選定保存技術「建造物彩色」保持者 馬場良治氏、（公財）文化財建造物保存技術協会 内海勝博氏、㈱小西美術工芸社 横田敏行氏を講師に迎え、平成15年から平成22年にかけて行われた聖天堂保存修理工事を振り返り、当時の修理の進行や、修理技法について解説いただいた後、研修生の皆様には、和紙を用いた彩色塗膜の保護や鍍金下地に取り組んでいただきました。また、修理時の材料やアプローチなどの共有を交えつつ、意見交換も行われました。

固有技術向上研修会

初級技術者を対象に各部門技術の一連の工程の習得と基礎技術の向上を意図した本研修では、車折神社（京都市右京区）芸能神社本殿で昨年度から3ヵ年の実技研修を進めています。塗装の掻落しと銑金具の取外しまでを終えた平成30年度に続き、今年度は、漆、彩色、単色塗、銑金具の各部門に於いて、塗装や補修の実技研修を実施しました。

「彩色研修会」

期 間：第Ⅰ期 令和1年8月26日～8月29日、第Ⅱ期 令和2年3月2日～3月6日
講 師：荒木かおり、助手 宍戸優子（宍川面美術研究所）
場 所：第Ⅰ期 車折神社 芸能神社本殿、社美協事務所、第Ⅱ期（宍川面美術研究所（いずれも京都市内））
研 修 生：第Ⅰ期 4名、第Ⅱ期 2名



荒木講師の建築装飾・墓股彫刻の変遷に関する講義を受講した後、緑下幕板の剣先・巴のトレース、割付、型彫りと、墓股彫刻の調査、復元図の二班に分かれて研修が進められました。墓股彫刻ではまだあまり経験のない彩色調査での状態の読み取りに苦労する姿も見られました。

併せて今年度は、来年度の実施に向け協障子の図案募集を行っており、来年度は選出された図案が彩色施工される予定です。

「漆塗研修会」

期 間：第Ⅰ期 令和1年9月2日～9月6日、第Ⅱ期 9月17日～9月21日、追加研修 令和1年10月～12月
講 師：長屋 進（株）さわの道玄
場 所：車折神社 芸能神社本殿（京都市）、追加研修 担当研修生の各事業所にて実施
研 修 生：5名 追加研修 2名



今年度は、協障子框、竹の節、緑下幕板、御扉といった様々な難易度の部位を対象に、漆塗りの一連の工程を学んでいただきました。残暑の厳しさや、大雨に見舞われて作業が中断するなどありましたが、研修生らは熱心に長屋講師の指導に耳を傾け、手を動かしていました。

細かい作業を要し、部材も多い竹の節彫刻を担当した研修生らは、残念ながら現場研修で作業終了に至りませんでした。追加研修の中で各自受け持った部材を完遂させました。

「単色塗研修会」

期 間：第Ⅰ期 令和1年10月7日～11日、第Ⅱ期 10月28日～11月1日
 場 所：車折神社境内 芸能神社本殿（京都市）
 講 師：片山龍馬（株片山）
 研 修 生：4名



片山講師指導のもと、今年度は昨年度搔落しまで進められた屋根回り、躯体部分を対象に胡粉、丹、墨、黄土の単色塗装を施工しました。研修生らは施工対象の養生に始まり、塗料の調合、ドーサ引き、下塗り、上塗りという一通りの工程を理解すると共に、温湿度で変化する塗料の状態を体得し、調整やネタの配り方、道具の扱いによる対処方法を学習しました。

「金具研修会 ①」

期 間：令和1年10月28日～11月1日
 場 所：(株)小西美術工芸社 東京工房（東京都大田区）
 講 師：宍戸康一（株小西美術工芸社）
 研 修 生：3名



日頃あまり交流のない金具部門の若手研修生らにとっては、異なる会員事業所同士の技術交流の場ともなつたようです。

また、来年度の新規製作研修に向けて、欠損部位の紋章製作の練習、新規製作金具の図面製作を進めました。

昨年度取り外した金具を対象に、研修生らは合番付から煮洗い、仕様調査、叩き直しといった基本的な補修の流れを研修しました。



「金具研修会 ②」

期 間：令和1年11月22日
場 所：(株)大谷相模掾鋳造所
講 師：大谷哲秀（(株)大谷相模掾鋳造所）
研 修 生：3名



本研修では、銅製金具の補修研修とは別建てで、新規擬宝珠金具の鋳造工程のうち、砂型工程の型詰めから鋳型の組立てまでを体験し、施設見学を行いました。

同じ金具部門の内容ではありませんが、鋳造は未経験の研修生らは、慣れない材料や道具の扱いに戸惑いつつも、大谷講師の実演を熱心に傾聴しながら手を動かしていました。

大谷相模掾鋳造所で研修生らの完成させた砂型への鋳造が進められ、来年度の研修で表面仕上げ、取付となります。

令和2年度の車折神社 芸能神社実技研修



平成30年度から開始した車折神社 芸能神社がいよいよ来年度竣工を迎えます。

現地研修は、屋内で手板や模型を対象に技術を習得する研修とは趣が変わり、気温変化や風雨、また周囲には一般の参拝客もおられ、実務に近い条件のもと技術の体得を進めることができます。

今年度の研修は酷暑や台風の時期の開催となり、まさにそうした悪条件の克服も含め参加者の皆様に研修いただきました。

漆塗、単色塗の工程を経て、社殿は既に鮮やかな色合いを取り戻しつつありますが、更に令和2年度の彩色、金具研修、各部材の取付で七月末の竣工を目指し完成となります。一層多くの方々に親しんでいただける芸能神社を講師、研修生の皆様と手がけて参ります。

研修期間中のご不便をいわず貴重な研修の場をご提供くださっている車折神社様のご厚誼に改めて御礼を申し上げます。

日本の技体験フェア（沖縄県那覇市）

ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技

文化庁主催「日本の技体験フェア」は、国内の選定保存技術団体が一堂に会し、展示や実演、体験コーナーを通じてそれぞれの技術や活動を一般の方に知っていただくイベントです。

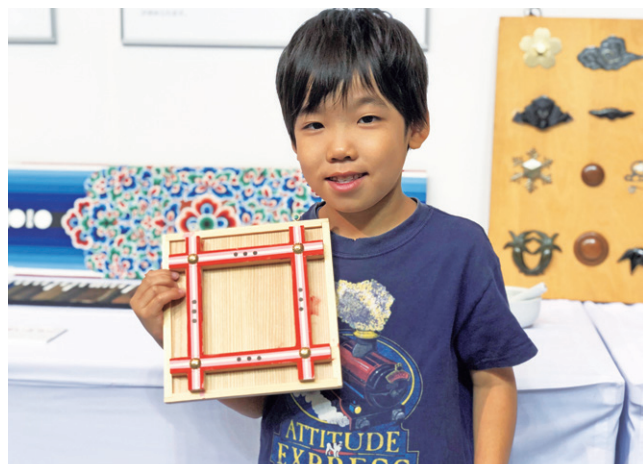
※当協会は、10年以上の参加実績があり、各部門技術紹介の展示や、近年では建造物修理保存技術を有する他の3団体と合同で「壁掛け製作体験ラリー」を実施。今年度は沖縄県那覇市を会場に、(株)小西美術工芸社から二名、(株)さわの道玄より一名に運営・実技講師として協力いただきました。

一般の方が数多く来場されることから、体験では実際の材料を使っていただくことが難しく、社美協ならではの技術体験の企画に苦戦します。今年は小さなお

子様から大人まで端的に伝統技術を体感いただけるようマスキングテープを用いた縹緞彩色に挑戦していただきました。参加者からは「展示内容がより深く理解できるようになった」、「高度で繊細な技術が求められることが分かった」といった声が聞かれました。

今年度の来場者数は3,526人。令和2年度は東京での開催が予定されており、オンラインピックにあわせ、一層の盛り上がりが期待されます。

※本イベントは平成27年から名称を変えて実施されています。



新規会員紹介

京都社寺鋳漆株式会社

代表 治村 嘉史（京都）

社寺・城郭等の鋳金物製作・修理を中心とした専門家集団として、平成15年8月に京都府知事認可に依り京都社寺鋳漆企業組合を設立いたしました。後に業務の拡大により、京都社寺鋳漆株式会社に組織変更いたしましたしております。

先輩会員方のご指導を賜りながら、文化財を守るという意義を探索させて頂きたく、また私共の技術が少しでも社会的なお役に立つのであれば幸甚です。

弊社では意匠図から、打立・糸鋸挽・鑢・鑿打・蠟付・鍍金・金匳掛・取付までの伝統的な鋳仕事を生業とさせて頂いております。

最近では大嘗宮建具鋳調製、名古屋城本丸御殿上洛殿帳台構鋳製作、伊勢神宮（外宮他）金銅飾調製、文化財では知恩院御影堂金具修理・平等院鳳凰堂露盤・西扉金銅鋳復元など保存修理にも携わらせて頂きました。

鋳の技術は江戸期には完成している、といわれており、修理の際我々は先人の技術をなぞらえることになりましたが、これが非常に難しく、また奥深く感じております。

平安期の鋳金物のなかには、鉄地に銅象嵌で水銀鍍金されている鋳がありますが、今では緑青と鉄錆のコントラストが美しく、錆び朽ちていく過程も計算されていたことが判ります。

異種金属接合の為、空気中の湿気で製作中にも電蝕で錆始めます。これをクリアする技術等、まだまだ私共が辿り着けない技術が多く残されています。

当時の職人の優れた美意識と思惑、技術から外れないよう今後も精進いたす所存です。

ご指導賜りますようお願い申し上げます。



株式会社後藤鋳金具製作所

代表 後藤 正嗣（京都）



後藤鋳金具製作所は京都山科の大石神社の近くに作業所があり社寺鋳金具全般の製作をしています。

昭和26年初代の正道が京都において十余年の修業を経て独立、二代目が私正嗣、三代目が息子正太で昨年法人化致しました。当初は神社関係の鋳金具（社殿の建築金具、殿内の諸神具の金具及び祭礼の御輿、鳳輦、鉦や山車の金具）等を主に製作していましたが現在は寺院の莊嚴金具から近代建築の内装金具

等幅広い分野の製品も手掛けるようになりました。とりわけ、文化財の復元修理工事等も手掛けさせて頂いております（京都府の社寺建築金具や祇園祭りの鉦金具の復元、新調等）。平成22年～30年にかけては名古屋城本丸御殿新築復元鋳金具工事に従事しました。約四百年前の金具の残存資料より忠実な復元が求められ、高度な技術や意匠に触れ先人の偉大な知恵とエネルギーに圧倒される思いで素晴らしい経験をさせて頂きました。

現在では少なくなった水銀鍍金の技術研究も掘り下げ、又環境問題に完璧に対応の出来る設備も設置しております。昨今文化財保護の重要性が再認識されていますが当社も対応するに十分な条件を整えています。

今後共なお一層の努力を重ねて貢献していく所存です。会員の皆様、賛助会員の皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(一社)社寺建造物美術保存技術協会 名簿

令和2年3月

No.	企業名（正会員）	氏名	登録部門					準会員数 (人)	郵便番号	所在地	電話番号 FAX番号
			漆	彩	剥	丹	金				
1	(一社)天野山文化遺産研究所	山内 章	●	●				6	586-0086	大阪府河内長野市天野町997	0721-55-3772 0721-55-3776
2	(株)大谷相模掾鋳造所	大谷哲秀 (大谷秀一)					●	7	537-0011	大阪府大阪市東成区東今里2-6-20	06-6971-6571 06-6971-6511
3	(株) 片 山	片山富夫	●	●	●	●		5	601-8308	京都府京都市南区吉祥院向田東町10	075-322-1236 075-316-6333
4	(有)川面美術研究所	荒木かおり	●	●				17	616-8242	京都府京都市右京区鳴滝本町69-2	075-464-0725 075-464-0099
5	岸野美術漆工業(株)	岸野直資	●	●				15	321-1404	栃木県日光市御幸町587-2	0288-53-3366 0288-54-0072
6	京都社寺鋳漆(株)	治村嘉史					●	6	611-0041	京都府宇治市横島町吹前85-3	0774-24-4489 0774-24-4489
7	(株)後藤社寺鋳金具製作所	後藤正嗣					●	4	607-8302	京都府京都市山科区西野山欠ノ上町1-39	075-593-4842 075-593-4844
8	(株)小西美術工芸社	デービッド・ アトキンソン	●	●	●	●	●	64	108-0014	東京都港区芝4-4-5三田KMビル3階	03-5765-1481 03-3455-9250
9	(有)彩色設計	小野村勇人	●	●				7	615-8072	京都府京都市西京区桂木ノ下町25-8	075-201-4582 075-201-4582
10	(有)齋藤漆工芸	齋藤敏彦	●	●				12	250-0631	神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-381	0460-84-2802 0460-84-0770
11	(株)さかい	酒井清裕	●				●	3	520-2331	滋賀県野洲市小篠原7-1	0775-87-1178 0775-87-5355
12	(有)佐和漆工芸社	伊原建樹	●	●	●			13	321-1423	栃木県日光市七里880-5	0288-53-3106 0288-53-3118
13	(株)さわの道玄	澤野道玄	●	●	●	●		18	604-8232	京都府京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491	075-254-3885 075-254-3886
14	(一財)塩尻・木曽地域 地場産業振興センター	小口利幸 (太田洋志)	●					2	399-6302	長野県塩尻市木曽平沢2272-7	0264-34-3888 0264-34-2832
15	(有)島津漆彩色工房	島津達也	●	●	●	●		16	731-5151	広島県広島市佐伯区五丁目大字上河内791-3	082-208-2407 082-208-2407
16	(株)はせがわ美術工芸	秋吉泰良 (田鹿秀夫)	●					7	822-0011	福岡県直方市大字中泉今林885-26	0949-24-7211 0949-24-7221
17	邑田漆芸(株)	邑田正廣	●			●		10	607-8355	京都府京都市山科区西野大鳥井町118-45	075-591-4137 075-502-0638
18	(株)森本鋳金具製作所	森本安之助					●	9	600-8321	京都府京都市下京区楊梅通西洞院東入る八百屋町59	075-351-3772 075-361-8877
19	(有)横山金具工房	横山智明					●	3	601-8394	京都府京都市南区吉祥院中河原北町14-3	075-325-4861 075-325-4862
20	(株)若林工芸舎	新谷和義	●	●	●		●	8	600-8218	京都府京都市下京区七条通新町東入西境町148-5	075-371-3137 075-371-3140
No.	企業名（賛助会員）	氏名							郵便番号	所在地	電話番号 FAX番号
1	(株)堤浅吉漆店	堤 孝							600-8098	京都府京都市下京区間之町松原上ル稲荷町540	075-351-6279 075-351-6270
2	ナカガワ胡粉絵具(株)	中川晴雄							611-0013	京都府宇治市菟道池山24	0774-23-2266 0774-20-4666
3	NPO法人丹波漆	岡本嘉明							629-1302	京都府福知山市夜久野町今西中710	080-5700-4363
4	NPO法人麗潤館	矢崎孝子							319-3526	茨城県久慈郡大子町大子705	0295-76-8777 0295-76-8779
5	鹿田喜造漆店	鹿田 明							600-8042	京都府京都市下京区麩屋町通仏光寺上る俵屋町290	075-351-7106 075-351-3166

※準会員：各正会員と直接的な雇用関係がある技術者

認定保存技術「建造物裝飾」認定団体

一般社団法人 社寺建造物美術保存技術協会

〒108-0014
東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3F
(株)小西美術工芸社内 (事務局)
Tel: 03-5765-1481 Fax: 03-3455-9250

編集
後記

今年度より着任となりました。不慣れ故、会員・関係機関の皆様にはご迷惑やご心配の尽きない一年であったかと思ひます。折に触れ、温かい手を差し伸べていただき、何とか一年を終えようとしています。新年度もどうぞよろしくお願い致します。(S)